

令和4年度 熊本外語専門学校 自己評価・学校関係者評価結果

委員構成

選任区分	所属等
高等学校関係者	元公立高等学校校長
企業関係者	関連企業の元役員
企業関係者	関連企業の元社員
卒業生	卒業生
保護者	卒業生保護者

第1回委員会：日 時 令和4年6月10日（金）13時30分開催

場 所 熊本外語専門学校 603 教室

出席者 評価委員5名 学校側3名

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 評価
- 4 提言について
- 5 卒業生進路（進学・留学・就職）
- 6 資格取得結果
- 7 入学者数
- 8 退学者数
- 9 重点目標
- 10 入学案内
- 11 校務分掌
- 12 年間行事
- 13 時間割
- 14 新たな取り組み
- 15 財務
- 16 施設・設備
- 17 閉会



第2回委員会：日 時 令和5年3月10日（金）13時40分開催

場 所 熊本外語専門学校 603 教室

出席者 評価委員 5 名 学校側 3 名

1 開会

2 校長挨拶

3 令和4年度学校の取組

4 自己評価

5 質疑応答並びに提言

6 その他

7 閉会



学校評価の進め方

【学校関係者評価の実施方法】

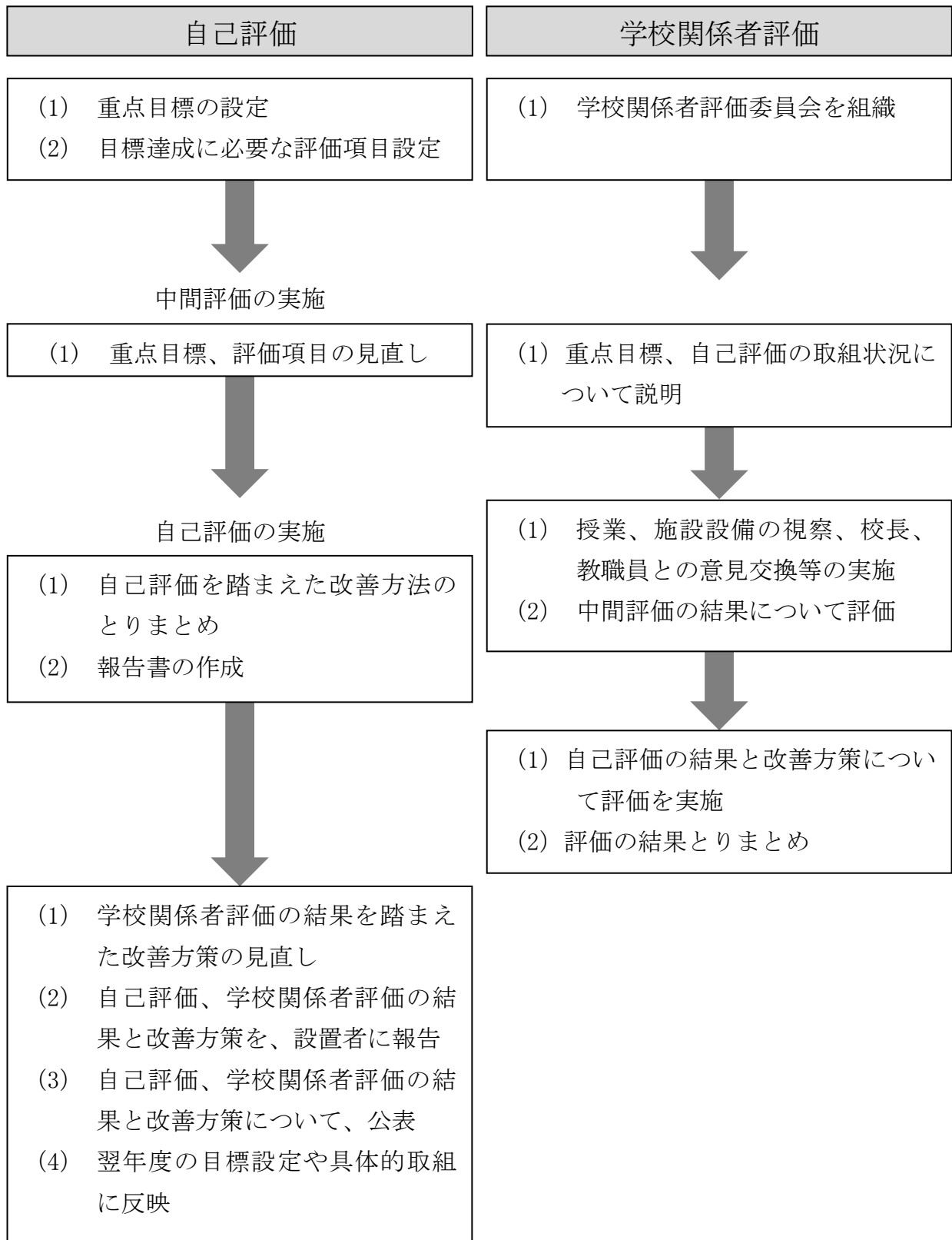
学校関係者評価の実施方法

①学校関係者委員会

学校と直接関係のある学校外の者を評価者とする学校関係者委員会を組織する。そのメンバーは、①卒業生、②保護者、③高等学校校長OB、④企業関係者、⑤企業関係者（もしくは財務専門家）の5名とする。尚、企業関係者の選定にあたっては、本校生の就職先で主に語学力を活かした職場を抱えている企業を選定する。

②学校関係者委員に、特に関わりのある重点目標、計画や自己評価、今後の取組方針などを説明し、学校見学や対話を通して教育活動、学校運営等に係る課題や今後の方向性等に助言をいただく。学校関係者委員会は、該当年度の学校が行った自己評価の結果の内容が適切かどうか、自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか、学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか、学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうかなどを評価する。

③評価委員会は6月、3月の年2回実施する。



1. 学校の教育目標

本校は、学校教育法に基づき学問の探求と技術の修得に情熱をもつ青少年に対し、外国語および日本語の教育を通して、常に時代の流れに対応し、国際化社会で活躍できる、有能にして礼節ある人材を養成することを目的とする。

2. 本年度に定めた重点目標

①語学力の向上を資格取得や就職進学に結び付けることをめざす。

1 年次から英検、中検、韓検、TOEIC などの語学資格試験に挑戦させ、語学への積極姿勢を養う。※能力別編成などの取り組み。

②出席率の向上と退学者の減少をめざす。

出席が学力向上及び生活習慣の形成につながるとの考えのもと、出席も単位取得の条件として生徒の出席を促す。また、毎年見られる退学者をいかに減らすことができるか有効な対策を考える。

③入学者 80 名確保をめざす。学校の運営継続に必要な学生数が大体 1 学年あたり 80 名であるので、その数を確保することは重要となる。

令和4年度項目別自己評価及び、学校関係者評価は以下のような結果になりました。

この自己評価及び、学校関係者評価に基づき、全ての項目において更に高い評価を得られるよう、一層努力して参ります。

3. 学校評価（学校自己評価・学校関係者評価）

評価の基準（適切：4 / ほぼ適切：3 / やや不適切：2 / 不適切：1）

(1) 教育理念・目標	学校自己	学校関係者
評価項目	評価	評価
①学校の理念・目的等が生徒、関係業界、保護者等に周知されているか	3	3
②各科の教育目標は、業界のニーズに向けて方向づけられているか	3	3
[課題] ①については、生徒への周知は十分為されていると考えるが、関係業界、保護者等への周知は不足していたことは否めない。 ※引き続き関係業界、進学先との連携を充実し、訪問等により最新の情報を得る。ニーズを把握する、語学力プラス業界に関連性の高い資格を取得する。		
[今後の改善方策] ①については、生徒は勿論のこと、関係業界、保護者等への周知徹底をはかりたい。その為にはそれらの人々との接触・連絡を密にすることが必要だと考える。 ②については、ニーズの把握に努め、必要なスキル（語学+α）修得を生徒に促すことが必要である。		

ー自由記入欄ー

・TSMC の菊陽町進出で熊本県下でのニーズは多方面で多角的に高まっているようです。語学のスキルアップで就職先の新規開拓に繋げてほしいです。

・（語学+α）という点で、学生委員会の発足など、生徒のニーズにこたえていこうという学校の努力が見られると思います。

(2) 学校運営	学校自己 評価	学校関係者 評価
評価項目		
①学校運営は、目的に沿った運営方針、運営方針に沿った事業計画、体制等が策定されているか	3	3
②情報システム等による業務の効率化が図られているか	3	3
[課題] ②については、電子黒板の導入などを行っているが、未だ十分に効率化が達成されておらず、見直すべき点が多い。 ※IT化等、業務の効率化についてはまだ改善余地がある。職員の意見を採り入れながら引き続き検討していく。		
[今後の改善方策] ②については、具体的にどのような点の効率化が遅れているか全職員で検討することで、問題点を明らかにし、その上でどのように効率化が進められるか確認する。また個人情報に関するデータを多く扱うため、データ管理の意識を更に高める必要がある。		

ー自由記入欄ー

・電子黒板導入後の明確なゴールがどこにあるのかが少し分かりづらいような気がします。ゴールに向けての進捗の見える化があると改善しやすくなるのかなと思いました。

・電子黒板とタブレットの導入が、私が勤める私立高校でも2年目を迎えているが、今のところその効率化については、どの学校においても試行錯誤の段階にあるのではないかと思います。

・DX時代に入りシステム等、日進月歩で大きく変化しています。進歩のスピードの速さに学校及び生徒も対応できるよう努めなければならないと思います。

(3) 教育活動	学校自己 評価	学校関係者 評価
評価項目		
①教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	3	3
②関連分野における実践的な職業教育（インターンシップ等）が体系的に位置づけられているか	3	3
③成績評価・単位認定・進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3	3
④人材育成教育を実践できる要件を備えた教員を確保しているか	3	3
⑤教員の能力開発のための研修等が行われているか	2	2
[課題] ②についてはインターンシップ、職業体験が生徒自身の選択に任されているので、個人差が著しく生じている。※インターンシップについて、現在学生自身の選択に任されており、学校側から積極的な推奨はしていない。参加を決めかねている学生にとっては、経験者の体験談を直接聞く機会やメリット・デメリット等の情報提供があれば、より参加しやすくなる。申し込みから研修終了までの流れが明確に示されることも参加への後押しになる。 [今後の改善方策] ②については、個人差が余り出すぎないように、バランスを考えて体験させることをめざす。 [改善済み] ③については、既に実施済み。		

ー自由記入欄ー

・インターン実績の企業を見るとインターンシップ可能な企業の新規開拓が必要では。

(4) 生徒指導	学校自己 評価	学校関係者 評価
評価項目		
①生徒の基本的生活習慣の確立のための取組が行われているか	3	3
②生徒の安全管理のための取組等が行われているか	3	3
③進学・就職指導にかかる支援体制は整備されているか	3	3
④生徒・保護者からの相談体制が整備されているか	3	3
[課題]		
①については、遅刻、欠席が目立つ生徒には各担任を中心に指導をしているが、高校時代から課題を抱えている学生が多く顕著な改善は見られなかった。		
[今後の改善方策]		
①については、家庭との連携を強化し、指導を継続して行う。		

ー自由記入欄ー

・大学受験も昭和、平成、令和と随分変化してきました。

少子化の中、大学側も学生の囲い込みに躍起となっているようです。

各大学の求める推薦者等の内容を分析し、具体的に先生と学生で対策を練る必要がありと思います。

・③について、年間を通して、生徒にニーズに合わせてタイムリーに指導されていると思います。

・自身、在学中に遅刻、欠席も多くあまり言えない立場ですが、生徒に明確な目標があるとそういう事もなくなるのかなーって思いました。

あと、クラスメイトと先生にも恵まれて学校が楽しかったです。

今仕事いただいているところの社員さんは決して給与は高くはないみたいですが楽しい職場と言う事で離職率も低いと伺ってます。

今の世代の子供達が思う楽しい学校を目指すことで出席率も改善するのかな。って思ったりしました。

(5) 特別活動	学校自己	学校関係者
評価項目	評価	評価
①クラブ活動等特別活動を奨励・支援しているか	1	1
②ボランティア活動を奨励・支援しているか	2	2
[課題]		
①については、施設設備、時間的制約の観点から実施できていない。②については、奨励はしても支援できるところまでは至っていない。		
[今後の改善方策]		
語学を生かしたボランティアを中心に、引き続き学生への情報提供等、きっかけ作りをすることに努めたい。		
今年度から、国際科チューター制度を設け、日本人学生と留学生の交流の場を設けている。		

－自由記入欄－

- ・チューター制度が有ると留学生は大変助かると思います。

(6) 学修成果	学校自己 評価	学校関係者 評価
評価項目		
①進学率や就職率の向上は図られているか	3	3
②資格取得率の向上が図られているか	3	3
③退学率の低減が図られているか	3	3
④卒業生への追跡調査を実施し、学校の教育活動の改善に活用されているか	2	2
[課題] ①の進学については、希望する学生の大多数は進学できているが国公立など難易度の高い大学へのハードルは高い。②については、できるだけ積極的に資格試験に挑戦するよう指導しているが、期待通りの結果につながらないケースも見られる。③については、できるだけ生徒とのコンタクトに努め、早目に退学の因となるものを除くようにしているが退学に至ってしまう場合も毎年一定数ある。④については、一部の卒業生を除き追跡調査はできていない。 ※卒業生への追跡調査は、進学・就職先の実態を把握でき、離職率や離職理由等、学生が進路を決めるうえで大きな判断材料になる。まずは卒業生へのアンケート実施等から取り組む。		
[今後の改善方策] ①については、できるだけ生徒が志望する大学等に進めるよう学力伸長に向けて努めたい。個人指導の強化が必要。②については、1年次から資格の有用性を認識させやる気を出させてより積極的に資格試験に挑戦するよう指導したい。③については、出席との相関関係が強く見られることから、出席に問題が生じたらできるだけ早く面談等を通して原因の把握に努めたい。④については、2020 年度中に実施済み。		

ー自由記入欄ー

- ・個人指導の強化で実績を積み重ねることがひいては生徒募集に好影響を与えていると思います。
- ・個別最適化された指導を心掛けておられると思います。
- ・資料を見てた時にコロナウイルスの蔓延にもかかわらず、就職率は高い気がしました。資格取得についてはあんまり増えてないような資格もあったので 2 にしました。

(7) 生徒支援	学校自己	学校関係者
評価項目	評価	評価
①生徒に対する経済的な支援体制は整備されているか	3	3
②生徒の健康管理を担う組織体制はあるか	3	3
③保護者と適切に連携しているか	3	3
④学力的に遅れている生徒に支援はしているか	3	3
[課題] ②については、年に1回一部学校負担でX線撮影を行っている。昨年は熊本県立大学の学生の方を招いて、自殺予防講習を行った。しかし、薬物乱用防止教育、H I V感染防止教育などは実施していない。		
[今後の改善方策] ②について感染防止の観点から教職員も生徒も全員X線撮影を行うことを義務づける。また薬物乱用防止教育等もできるだけ実施できるよう努める。		

(8) 教育環境	学校自己 評価	学校関係者 評価
評価項目		
①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	3
②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3	3
[課題] ①については、エレベーターや空調機器等施設・設備の一部に更新を必要とするものがある。②については、姉妹校（州立モンタナ大学・北京語言大学）との交流が十分できていない。 ※本校には、姉妹校（州立モンタナ大学、北京語言大学）があるのに、全くではないが交流ができていない。もっと海外研修などを取り入れる。		
[今後の改善方策] ①については、できるだけ早急に取り組みたい。（LED 照明の変更に取り組んでおり、いずれは全館変更するために見通しを立てていきたい。）②については、インターンシップ、海外研修等を積極的に促し、姉妹校との交流も活発化していきたい。またオンラインによる授業や交流の可能性についても検討してみたい。		

－自由記入欄－

・コロナ禍を契機とした社会変化の中、それでも具体的に人と接し、海外で勉強、生活することは掛け替えのないものです。姉妹校との交流を一層深めて頂きたいと思います。

(9) 生徒募集	学校自己 評価	学校関係者 評価
評価項目		
①生徒募集は適正に行われているか	3	3
②生徒募集活動において、資格取得・就職情報等の情報は正確に伝えられているか	4	4
[課題] ①の生徒募集については、できるだけ効率的に、県内を中心に、高校等訪問や説明会、進学情報誌、TVCM、タウン誌、オープンキャンパス、インターネット等を通じて行っている。また留学生の募集については、主に留学生派遣のエージェントを介して行っており、現在回復しつつあるが、完全に回復はしていない。		
[今後の改善方策] 高校生が手軽に情報収集できるように、オープンキャンパスの予約や、情報発信などを行っていくために LINE 公式アカウントの作成を試みている。		

(10) 財務	学校自己 評価	学校関係者 評価
評価項目		
①中長期的に学校の財政基盤は安定していると言えるか	3	2
②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3	3
③財務について会計監査は適切に行われているか	4	4
④財務情報公開の体制整備はできているか	4	4
[課題] ①については収支バランスにおいて支出が収入を上まわっている状態が続いている。中長期的には、収支のバランスを取るために早急の対策が必要である。③、④についてはインターネットでの公開が既になされている。 ※生徒数の増加に注力することが経営の安定には不可欠である。留学生に関してはコロナが落ち着かない事には動きが少ないので、各国間の入国がスムーズになったときに備え準備の必要があるか。またそれと同時にオンラインなどを活用した生徒の募集や設備を整えることでの外部からの施設利用も期待したい。教室の時間貸しなどについてはもっと積極的にPRする。折角の好立地を生かさない手はない。		
[今後の改善方策] ①については、学生増を中心に収入の増大をはかることが必要だが、収入確保の為にその他の方法も取り入れることを検討する。 具体的には好立地を利用して貸部屋による収入増を考えている。稼働率はコロナの為に低下していたが、コロナ減少により回復しつつある。		

－自由記入欄－

- ・財務等については、正直なところ、よくわかりません。
- ・目標生徒数に達成してないために2の評価にしています。

(11) 法令遵守	学校自己 評価	学校関係者 評価
評価項目		
①法令・専修学校設置基準等の遵守と適切な運営がなされているか	4	4
②個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	3	3
[課題] ①については、各スタッフの良識と判断に任されているが、できるだけ誤断をおかさないようお互いにチェックし合うことも必要である。		
[今後の改善方策] ②については、これまでに個人情報流出による問題は発生していないが、データ管理等も含め個人情報の管理を更に徹底したい。その一つとして、生徒の個人情報を持ち出すことは厳禁という意識を全職員に徹底したい。		

(12) 社会・地域貢献	学校自己 評価	学校関係者 評価
評価項目		
①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献、地域貢献を行っているか	3	3
②生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3	3
③地域に対する公開講座・教育訓練の委託等を積極的に実施しているか	3	3
[課題] ①については、部屋のレンタルを通じて貢献できると考える。③については公開講座は実施しているが教育訓練の受託は行っていない。 ※部屋のレンタルを通じて貢献できる。多いに活用したい。 ※地域貢献の観点からいえば、ターゲットを若者以外に絞った公開講座の実施、例えばリタイア後の高齢者を対象にした英会話講座等を検討してもいいのではないか。		
[今後の改善方策] ①については、部屋のレンタルを今後も積極的に行っていく。②については、支援まで行えるよう努めたい。③の教育訓練も可能な限り受け入れていく方向で検討したい。公開講座は受講者を増やすべく更に努力が必要である。		

ー自由記入欄ー

・交通の便の良い立地に有る本学でのリタイア後の高齢者を対象とした講座に期待します。

(13) 国際交流	学校自己 評価	学校関係者 評価
評価項目		
①留学生の受入・派遣について戦略を持っているか	3	3
[課題] 留学生の受け入れは行っているが、言語や文化の違いによる様々な問題が発生している。海外姉妹校への派遣がこのところ進んでいない。		
[今後の改善方策] 現在アメリカモンタナ州の州立モンタナ大学及び中国の北京語言大学と姉妹提携をしているが、積極的に留学生派遣も進めていきたい。また、日本人学生の姉妹校への留学も支援していきたい。		
海外からの留学生のインターンシップは行う方向で考えており、モンタナ大学の学生受け入れを目指して調整中。		